

前回検討会議でのご意見と対応

意見者	事項	いただいたご意見の主な内容	事務局回答
佐々木 吉晴委員	展示機能と収蔵機能の拡充について	<p>展示室500㎡の増床及び収蔵庫について具体的な根拠を示せないか。</p> <p>単純に作品を展示するだけではない、クッションになるような空間の存在もあってはいいのではないか。それも含めて、フレキシブルということで考えいただきたい。</p> <p>コレクションを展示するスペースが大きければ大きいほど収蔵庫の問題はおのずと解決されてくる。コレクションを収蔵庫の中に眠らせずに、可能な限り良いものを一般の目に触れるような形にしていくというためには、常設展示室をこれからもっと充実していったらどうか。</p>	<p>展示室については、増床によって常設展示を充実させたいと考えております。平成以降に開館した都道府県立美術館の常設展示室の平均面積は1,494㎡で、うち半数が1,500㎡を超えており、拡大傾向にあると言えます。現在の本館常設展示室の面積は1,165㎡ですが、東北地方を代表する美術館としては1,500㎡以上を備えることが望ましいと考えられます。</p> <p>リニューアル後の常設展では、美術館の名作をいつでも見ていただくと共に、多彩なテーマによって、常に新しい発見を提供する展示を目指します。そのために十分な数の作品を展示できる面積を算出すると、現状よりも500～600㎡程度広い面積が必要になります。以上より、展示室は500㎡の増床を検討します。</p> <p>なお、収蔵と展示をつなぐ新しい展示スタイルの提案を図り、収蔵庫機能をヴィジブル・ストレージ（見える収蔵庫）の手法に対応できる仕様に改修することも検討しています。</p> <p>収蔵庫に関しては、収納状況が約40%の超過となっており、現状約1,000㎡（本館・忠良館含む）に対し約400㎡不足していると捉え、今後の収集によって新たに必要になる面積が見込まれる面積を200㎡、前室を100㎡確保することが必要と判断し、700㎡の増床を考えております。</p>

前回検討会議でのご意見と対応

意見者	事項	いただいたご意見の主な内容	事務局回答
今野 薫委員	「キッズ・プロジェクト」について	「キッズ・プロジェクト」については、ソフト的な部分と、ハード的な部分が、混在している。うまく整理をするところで、もっと良いものができるのではないかと。	<p>「キッズ・プロジェクト」（仮称）は、子どもの創造性や知的好奇心を育むための活動として、これまで行ってきた事業を踏まえて新たに再構築するものです。</p> <p>子どもがのびのびと充実した活動を行うために、「キッズ・プロジェクト」の拠点として、「キッズ・スタジオ」を設置します。キッズ・スタジオは素材体験や造形遊びのプログラムに使用できる空間で、現在の造形遊戯室の機能を含むものとします。他のエリアとの関わりを保ったオープン・スペースとします。</p> <p>また、「創作室1」について、粘土や絵具及び水等を使用するプログラムを実施できる従来の空間を更に増床し、拡充します。付近に利用者専用更衣室と荷物置き場を設置します。</p> <p>これらハードの整備とともに、子どもにもわかりやすい作品解説や、案内表示の設置、子どもと美術に関する研究の推進等、ソフト面でも更なる充実化を目指し、館内のあらゆる場所でプロジェクトを推進して参ります。</p>

前回検討会議でのご意見と対応

意見者	事項	いただいたご意見の主な内容	事務局回答
及川 聡子委員	「キッズ・プロジェクト」について	<p>子どもに関し、最近よく聞く言葉に、発達障害とか、東北の震災以降の PTSD の問題がよく出てくる。福祉的というほどではなく、芸術療法というほどしつかりでなくてもいいが、そういう指導ができる方や、理解がある方が「キッズ・プロジェクト」の中において、そこで美術の可能性として、アウトサイダー・アートのもの等も育まれたらいいのではないか。実際に学校教育の中で、特別支援学校ということで、分けられてしまっていく方向があり、しかしその分周囲との一体感を味わえない。そのときに美術というのが、そういう方たちの才能を広げる気もするし、そういった方たちから周囲が学べるものがたくさんあるので、このプロジェクトの中でも、美術の可能性として、教育のこととして広げていただけたら良いと思う。</p> <p>発達障害を持つ子どもたちが、自由にしてよいときのルールや鑑賞の際に集中すること等を学べると良い。</p>	<p>これまでも、教育普及活動において、障害を持つ方のアート活動を支援する NPO 法人や障害者福祉関連団体と一緒にプログラムを実施していることもあり、リニューアルに向けて、関係団体との一層の連携強化を図って参りたいと考えております。また、今回リニューアルに向けた各種団体への意見聴取において、発達障害等を持つ方に向けた取り組みに関してもご意見を頂いており、今後キッズ・プロジェクトのプログラムや、バリアフリー化の参考にさせていただきたいと考えております。</p>

前回検討会議でのご意見と対応

意見者	事項	いただいたご意見の主な内容	事務局回答
小野田 泰明委員	基本方針策定への取り組みについて	<p>リノベーションはあるところに集中と選択を実施した上で、プロジェクトの内容を示さないと、趣旨が県民には伝わらない。</p> <p>作業ワークショップ等を行うことで、あらかじめコストを含めた問題点を抽出し、リスクをチェックするような「川上チェック型」の方針をプロセスの中に取り入れてはどうか。</p>	<p>リニューアルの中で、特にウエイトを置く部分が明確になるような構成を意識して基本方針を作成いたします。中間案では、具体的な改修内容を4つのコンセプトによって整理し、イメージ図を挿入することでそれぞれの中心的な施策を視覚的に示しております。</p> <p>8月から10月にかけて実施したワーキンググループでは、大字根建築設計事務所の協力を得ながら、諸室配置のシミュレーションを含めた具体的な内容の検討を行って参りました。配置案の検討に際しては、技術的な実現性のチェックや、概算工費の比較なども行っております。基本方針でお示しする方向性は、こうしてある程度実現性を確認した上で形成したものです。</p>
庄子 明宏委員	アリスの庭・北庭について	<p>美術館は、門というか中庭まで入ってみたいとわからないところがあるが、中庭の他アリスの庭も北庭も、面白い場所がたくさんあるのに、それが外から見えない。特に北庭の新宮晋さんの作品は、風と遊んでいる作品だと思うが、象徴的に取り扱われてもいいのではないかと思う。</p>	<p>庭に関しては、意見聴取先からも、重要性や場所の分かりづらさについて、いくつかご指摘をいただいているところであり、リニューアルに向けて情報発信の充実化にも力を入れていきたいと考えております。</p>
	キッズ・プロジェクト	<p>子どものことについて考えるというプロジェクトであるが、仙台圏に住まれる方は、意外と身近に感じられるが、圏外の方の場合、なかなかそういうことがあっても親身に考えられない部分が強くあるので、圏外のアプローチの仕方も今後考えていく必要がある。</p>	<p>リニューアルに向けて、県内の美術館との相互の情報発信や連携を強化するための体制の構築を検討しております。</p>

前回検討会議でのご意見と対応

意見者	事項	いただいたご意見の主な内容	事務局回答
濱田 淑子委員	キッズ・プロジェクト	<p>日常的に親が子どもを連れて、自由に楽しく見せられる、学校の先生方が連れてきても、楽しいイメージを持てるような美術館に、建物だけのリニューアルではなく、これまで美術鑑賞してきた側の意識転換・リニューアルをできるような形になっていけばいいと思う。</p> <p>館内にいつも子どもがいて、お年寄りがいて、様々な層が楽しく活動できると美術館のイメージをつい膨らませているところである。根本的なところであるが、そのあたりのところを踏まえた上で考えてほしい。</p>	<p>リニューアルのコンセプトである「子どもたちの豊かな体験を創出する美術館」及び「人々が憩い、くつろぎ、集い、つながる美術館」に沿って誰もが過ごしやすい美術館にするために、改修を検討するとともに、職員を含め、美術館に関わる人々の意識も新たにするような美術館づくりを目指します。</p>